

# 英語科 学習指導案

実施学級 第3学年4組 20名・19名  
実施日時 令和7年11月18日 5時限  
実施場所 教材室・3年4組教室  
指導者 橋尾 誠・安藤 亜由美

## 1 単元名

Lesson 7 “Design for Change” 「デザインの力」

## 2 単元目標

- ・ 仮定法過去「もし～なら、…するだろう（できるだろう）」「～であればいいのに」「私が～だったら…」(仮定法過去)の特徴やきまりを理解し、それらを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えることができ、それらを含む文を用いて話したり、正確に書いたりすることができる。
- ・ 適切なつなぎ言葉を使いながら、トークテーマ「もしタイムマシンがあれば、どこに行くだろう。」について、即興で伝え合ったり、質問に応答したりすることができる。
- ・ 問題を解決するために、問題点と状況の具体について書かれた募集要項を読み、自分の考えを簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。

## 3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	仮定法過去「もし～なら、…するだろう（できるだろう）」「～であればいいのに」「私が～だったら…」(仮定法過去)の特徴やきまりを理解し、それらを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えることができ、それらを含む文を用いて話したり、正確に書いたりすることができる。
思考・判断・表現	仮定法過去の表現を用いる目的、場面、状況などに応じて、簡単な話し合いができる。それらを互いに表現し、意見交換を行える。また、つなぎことばを使いながら、トークテーマについて即興で伝え合ったり、質問に応答したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	目的、場面、状況などに応じて、即興でつなぎことばを使いながら、テーマについて即興で伝え合ったり、質問に応答したりしようとしている。また、自分の考えを簡単な語句や分を用いて述べ合おうとしている。

## 4 単元全体の指導計画（全8時間）

		授業名	ごみはごみ箱に（仮定法過去/ if）
第一次	①②/8	ねらい	仮定法過去(if)の特徴やきまりを理解し(動詞をわざと過去形にする。could, wouldの使い分けに注意)、文を聞いたり、読んだり、話したり、正確に書いたりする事ができる。
		「深い学び」への	文法を理解した上で生徒自身が個々に英文を作成し、Teamsを

		指導ポイント	用いて他者の英文にも触れ、様々な表現やアイデアを参考にできるようにする。
第二次	③④/8	授業名	〇〇したくなるしかけ (仮定法過去/ I wish)
		ねらい	願望を表す仮定法過去(I wish)の特徴やきまりを理解し、文を聞いたり、読んだり、話したり、正確に書いたりする事ができる。
		「深い学び」への指導ポイント	文法を理解した上で生徒自身が個々に英文を作成し、Teamsを用いて他者の英文にも触れ、様々な表現やアイデアを参考にできるようにする。
第三次	⑤/8	授業名	私だったらこうするよ (仮定法過去 / If I were you)
		ねらい	仮定法過去(If I were you)の意味や働きを理解し、文を聞いたり、読んだり、話したり、正確に書いたりする事ができる。
		「深い学び」への指導ポイント	文法を理解した上で生徒自身が個々に英文を作成し、Teamsを用いて他者の英文にも触れ、参考にできるようにする。
第四次	⑥/8	授業名	Small Talk (もしタイムマシーンがあったら…)
		ねらい	話し相手と会話を続けて、よりよい関係を築くためにつなぎ言葉を使いながら、トークテーマについて、即興で伝えあったり、質問に応答することができる。
		「深い学び」への指導ポイント	これまでに学んだ「仮定法過去」の様々な表現やつなぎことばを復習し、適切に用いて活発な会話が行われるように促し、「他者に伝えること」を評価する。
第五次	⑦⑧/8	授業名	Goal Activity (どんな工夫をすれば伝わりやすい?)
		ねらい	問題解決に向けて、募集要項を読み、読んだことに基づいて、自分の考えを簡単な文や語句を用いて述べ合える。
		「深い学び」への指導ポイント	Teamsに投稿することで、生徒自身の意見を表明し、また同時に他者の意見を参照できるようにする。

## 5. 本時 (第1次1時間目)

### (1) 本時の指導目標

観点	目標	手立て
知識及び技能	仮定法過去(if)の特徴やきまりに関する事項を理解し、それを含む文を聞いたり、読んだりして、内容を捉えること	身近な事例を挙げて、生徒自身に仮定法過去の決まりや特徴に気づかせ、定着を促す。
思考力、判断力、表現力等	仮定法過去(if) を特徴やきまりに関する事項を理解し、それを含む文を用いて話したり、正確に書いたりすることができる。	仮定法過去のきまりを用いて、生徒自身が英文を自作し、自身の理解度を確認する。また、ペアやクラスで互いの英文を共有することで様々なアイデアや表現に触れさせる。

主体的に学習に取り組む態度	習った文法や表現を使って、英作文の作成やペアとの伝えあいに積極的に取り組んでいる。自身の表現や他者の表現に触れ、参考にしたり改善しようとしている。	スプレッドシートに「今日理解したこと」「参考になった表現」を記入し、振り返りを促す。
---------------	---	--

(2) 教材

タブレット端末、提示用 PC

(3) 学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫
一斉指導	導入及び文法事項の提示・まとめにおいて、本時の学習課題を生徒につかみやすくさせる。
個別最適な学び	既習事項を参照し、新しい文法の導入をできる限り容易にする。また、新しい文法の導入直後、デジタル上のワークを取り入れ、新規文法の定着を促すとともに、個別につまずいているポイントに教員が気づき、早期支援を行えるようにする。
協働的な学び	提示された読み物の読み取りや英作文をペアで行うことで、自然と生徒同士の協働・教えあいが生まれるようにする。また、自作の英作文をクラスで共有することにより、互いの様々な発想に触れられるようにする。

(4) 補足資料

(if の復習)

(読み物 (短文))

(3) 前の文と後の文を入れ替えることのできる接続詞 (順番を逆にしても意味は同じ) ①

② when: 「～」 「～」  
 ・ I come home. (私は帰宅した) ①  
 ・ My sister was cooking dinner. (姉は夕食を作っていた) → この2文をつなぐ①  
 → (ア) When I come home, my sister was cooking dinner. ①  
 または → (イ) My sister was cooking dinner when I came home. ①

※注意: 上のア・イどちらの文も全く同じ意味を表すが、この接続詞 (when) で始まる文では、前後の文の間に ① が必要となる!

③ because: 「～」 「～」  
 ④ if: 「～」 「～」  
 ⑤ before: 「～」 「～」  
 ⑥ after: 「～」 「～」  
 ⑦ while: 「～」 「～」  
 ⑧ though: 「～」 「～」

※③～⑧の接続詞も②の when と同様の使い方をします!

①

【基本チェック】 上の内容が理解できたら、次の問題ができます。

◆ ( ) 内から適する語を選びなさい。


① I know (that, when) Shinji is in Kobe now. ①  
 ② We will go fishing (before, if) it is sunny tomorrow. ①  
 ③ You have to wash your hands (that, before) you eat lunch. ①  
 ④ Taro watched TV ( after, when) he did his homework. ①  
 ⑤ Do you think (if, that) he will read this book? ①  
 ⑥ Close the windows (before, though) you go to bed. ①


「If I had a Dokodemo Door, I would eat breakfast in Tokyo, lunch in New York, and dinner under the stars in Morocco. If I had a Dokodemo Door, I would bring my friends to the pyramids in the morning and to the Great Barrier Reef in the afternoon.」

※Great Barrier Reef グレートバリアリーフ (オーストラリアにある世界最大のサンゴ礁地帯) ①

(英作文の書き込みスライド見本)

Name: \_\_\_\_\_

**If I had a time machine, I would go to the past to see dinosaurs.** 

**If I had magic powers, I could fly in the sky to see the world.** 

(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
具体的な場面を記載 ・ 仮定法過去（現実には起こりそうにないこと）の表現の特徴をとらえ、自分の考えを英文で表現することができ、各生徒それぞれが作った英文を互いに読みあい、共有し、互いの様々な発想に触れ合うことができている。				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前配信の文法事項を確認する。（if, 助動詞の過去形等）</li> <li>本時の学習課題を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各生徒が既習文法の確認ができるように促す。</li> <li>教師の発話やスライド上の英文から、生徒に興味を持たせ、まずは生徒自身に意味を考えさせる。</li> <li>答えを共有し、仮定法の概念や特徴に気づかせる。</li> </ul>	個別 一斉	Teams（既習文法の提示） Power point（基本文提示）
仮定法の表現を知り、「もしタイムマシンがあったら…、自分は何をするだろうか（できるだろうか）」を具体的に考えて、英文で表現し意見交換する。				
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>「もし私がどこでもドアを持っていたら」の短文を読み、仮定法過去の箇所や意味を確認する。</li> <li>基本文の口頭練習を繰り返す。</li> <li>文法説明後、ノートにまとめる。</li> <li>デジタル語順ドリルやドリルパークで、文法確認・練習を行う。</li> <li>” If I had a time machine (a take-copter/ magic powers 等)の表現を用いて、自分の願望や想像を表現する。</li> <li>ペアで共有した後、クラス全体でも共有し、独創性に優れた文を選び、共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアでの確認を推奨し、生徒間の教えあいを促す。</li> <li>繰り返すことで定着を促す。</li> <li>机間巡視し、必要に応じて個別指導を行う。</li> <li>例文を提示し手本を示す。</li> <li>独創性あふれる文を作ることを推奨し支援する。</li> <li>ペアでの協働を推奨する。</li> </ul>	個別協働 一斉 個別 個別協働 協働	Teams（教材の提示）  デジタル語順トレ・ドリルパーク Power point（英作文の書き込み・共有）
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時で学んだことを振り返り、自身の理解度を記入する。</li> <li>宿題を提示する。</li> </ul>			Excel（振り返り）

